

	直音單						開拗音			直音		
	ウ段	才段甲	才段乙	ア段	イ段甲	エ段甲	ウ段	オ段	ア段	イ段乙	エ段乙	
ヤ行	ju	jo		ju	ja							
ア行	u, hu	o, ho	u, hu	a, ha	i, hi	e, he				ae, hae		
ワ行				va	vi	ve			vya			
ラ行	ru	ro	ru	ra	ri	re	ryu	ryo	rya			
サ行	su	so	su	sa	si	se	syu	syo	syu			
ザ行	zu	zo	zu	za	zi	ze	zyu	zyo	zya			
ナ行	nu	no	nu	na	ni	ne	nyu	nyo	nya			
タ行	tu	to	tu	ta	ti	te	tyu	tyo	tya			
ダ行	du	do	du	da	di	de	dyu	dyo	dya			
カ行	ku	ko	ku	ka	ki	ke	kyu	kyo	kyu	kui	kae	
ガ行	gu	go	gu	ga	gi	ge	gyu	gyo	gya	gui	gae	
マ行	mu	mo	mu	ma	mi	me	myu	myo	mya	mui	mae	
パ行	pu	po		pa	pi	pe	pyu	pyo	pya	pui	pae	
ハ行	xu	xo		xa	xi	xe	xyu	xyo	xya	xui	xae	
転呼ハ行	fu	fo		fa	fi	fe	fyu	fyo	fya	fui	fae	
バ行	bu	bo		ba	bi	be	byu	byo	bya	bui	bae	
クワ行				kwa	kwi	kwe			kwya			
グワ行				gwa	gwi	gwe			gwya			

	墨字	数
子音字	b, d, f, g, h, j, k, m, n, p, r, s, t, v, (w), x, z	16 (17)
母音字	a, e, i, o, u, u	6
準母音字	ə, ɿ, w, y	4
被せ音字	ó, ò	2
分音記号	ö	
不使用	c, l, q	
	ŵ → w	
	vr → u	
代用表記	ə, ɿ → e, u	
	ó, ò → o	
	ö → o	

注	万葉仮名と中古音の関係、平安時代初期までコ/ゴで対立した甲乙、才段の合拗音とエ段の開拗音の不在、下二段活用動詞「得」、各音節の使用頻度、以上の点からヲとオをア行オ段の甲乙、通説に於けるヤ行のエとア行のエをア行エ段の甲乙とみなす。
	日本書紀α群での万葉仮名の傾向、ワ行オ段乙の不在、唇音の行に於けるオ段の甲乙対立の弱さ、以上の点からホ/ボは甲類として扱う。
	合口の字音による万葉仮名「歸/貴」、終止形のみの動詞「う」と上一段活用動詞「居る」の関係、ア行イ段乙の不在、唇音性の強さと連動するかの様な「身/火/木」の被覆形の差、「果物」のクと「木」の関係、「木」の長音的な表記「紀伊」、コ乙とイの連続による「常盤」のキ甲、有坂池上法則、以上の点からイ段乙の綴りを uiとした。 cf. 止攝合口の字音, 分音 ūi
	被覆形でのア段、カとイの連続による「高市」のケ乙、ガとイの連続による「我家/吾妹」のギ甲、「櫂」、音声や活用型に於けるイ段とエ段の近さ、各母音字の使用頻度、甲乙の無いエ段を担った万葉仮名の甲類らしさ、活用語尾の統一性、以上の点からエ段乙の綴りを aeとした。cf. 「采/才」の古い字音サエ/ザエ, 分音 ae
	万葉仮名としての音価と字音仮名遣が異なるものであること、1拍名詞でのオ段甲の多さ、有坂池上法則に基づく母音字の分類 {u, o, a} 対 {u}, 以上の点から字音に於けるオ段はオを除き常に o で綴る。
	アクセント単位の頭以外にア行で始まる形態素(活用語尾を除く)がある場合、そのア行の音が直前の拍と共に一つの音節を成していない限り、子音音素による音節の境界があるとみなし、ア行の子音字 h を使う。
	通常のハ行の子音は x が、転呼してワ行と同音となったハ行の子音は f が担う。
	院政期から現代(東京式/京阪式)までのアクセント史に基づき、「矢[●]」や「石/川[●○]」の語末およびそれと同種の音節の綴りでは被せ音字 ö を、「手[○]」や「山/犬[○○]」の語末およびそれと同種の音節の綴りでは被せ音字 ö を母音字(イ段乙 ui なら i, エ段乙 ae なら e)の上に置く。
	東京式の綴りに於いて、語末に被せ音字を持つ单語は修飾語として使われるとその被せ音字を失うとみなし、繫辞「だ」を除く接語は固有の被せ音字を持たなくなつたとみなす。「山の/犬の」などのアクセント史から、名詞と他の接語に挟まれた接語の語末に生じる被せ音字は ö とみなす。
	外来音の綴りは次の通り。ウォ vəo, イエ jəe, シエ syəe, テイ/デイ təi/dəi, トウ/ドウ təu/dəu, テュ/デュ təyu/dəyu; ツア/ヅア tǔa/dǔa, フア xǔa, フュ xǚu それぞれ1拍を担う。
	ヴとブに音価の対立を認める場合、前者の子音は ɿ が担う。翻字では無い為、ヴァの綴りは ɿǔa ではなく ɿā となる。
	Vatanabe Takajuki Segsyoxafu 2024-01-14